

全国医学院校高职高专教材

中 医 学

主 编 吴水盛 谭泰华
副主编 张丽霞 权觉武

北京大学医学出版社

全国医学院校高职高专教材

中 医 学

主 编 吴水盛 谭泰华

副主编 张丽霞 权觉武

编 者 (以姓氏笔划为序)

权觉武 (渭南职业技术学院)

孙爱英 (邵阳医学高等专科学校)

吴水盛 (怀化医学高等专科学校)

张丽霞 (怀化医学高等专科学校)

范冀湘 (岳阳职业技术学院)

欧阳峰松 (长沙医学院)

谭泰华 (长沙医学院)

北京大学医学出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

中医学/吴水盛, 谭泰华主编. —北京: 北京大学医学出版社,
2007. 7

全国医学院校高职高专教材

ISBN 978-7-81071-941-4

I. 中… II. 吴… III. 中医学—高等学校: 技术学校—
教材 IV. R22

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2007) 第 060780 号

中医学

主 编: 吴水盛 谭泰华

出版发行: 北京大学医学出版社 (电话: 010-82802230)

地 址: (100083) 北京市海淀区学院路 38 号 北京大学医学部院内

网 址: <http://www.pumpress.com.cn>

E-mail: booksale@bjmu.edu.cn

印 刷: 北京东方圣雅印刷公司

经 销: 新华书店

责任编辑: 张彩虹 责任校对: 杜 悦 责任印制: 郭桂兰

开 本: 787mm×1092mm 1/16 印张: 22.5 字数: 570 千字

版 次: 2007 年 7 月第 1 版 2007 年 7 月第 1 次印刷 印数: 1—6000 册

书 号: ISBN 978-7-81071-941-4

定 价: 33.90 元

版权所有, 违者必究

(凡属质量问题请与本社发行部联系退换)

前 言

中医学是医学高等专科学校临床医学类专业的一门必修课。中医药是我国医疗卫生事业的重要组成部分，与现代医学一起共同承担着保护人民健康，提高人民健康水平的任务。为了适应医学专科教育改革的需要，加快新型农村合作医疗制度改革的进程，为基层培养面向 21 世纪的高级医学人才，树立科学发展观，建立和谐社会奠定基础。根据教育部《高等教育面向 21 世纪教学内容和课程体系改革计划》精神，在吸收了近年来中医学研究成果，结合各医学专科院校部分老师教学实践经验，听取了部分学生意见前提下，针对医学高等专科学校临床医学类专业的特点，组织编写了本教材。

在编写过程中，全体作者认真学习了《中国医学教育改革和发展纲要》中所要求的教材要面向现代化、面向世界、面向未来的指导思想。遵循“中医要发展，教材要改革”的目标，坚定不移地把辨证论治、整体观念的基本特色贯穿于教材的始终，在继承中不忘发扬，在发扬中不失中医源流。阐明中医的人文背景及哲学思想，以及所涵盖的唯物论、辩证法，反映中医基本理论的认识论、方法论。了解中医发展过程中的新动态、新技术、新进展，以培养能适应生产、建设、服务第一线，服务基层需要的德、智、体、劳全面发展的高技术人才为宗旨，力求保持教材的系统性、完整性、先进性，以满足医学高等专科学校中医学教学的实际需求。

本教材除绪言外共 12 章，为了在有限的教学课时里达到学好中医学的目的，除了必要的中医基础理论如阴阳五行、藏象、经络、病因病机、诊法、防治原则、中药、方剂外，把编写的重点放在辨证论治、常见病证的防治和针灸治疗。与以往教材不同的是在导读一章中增加了“中医学发展的人文背景”和“中医学的逻辑思维”，在基础理论部分增加了“精气学说”。中药一章强调了中药的现代药理作用和使用注意。同时加大了常见病证的篇幅，全部使用中医病名，突出中医辨证论治特色，并将针灸、护理与预防融汇到每个病证之中。在非药物疗法一章中，增加了“心理疗法”。全书着墨力求简练精要，逻辑严谨，文字流畅，突出特色。

教材编写是一项艰巨而细致的工作，各位编者按照编写要求，以严肃认真和高度负责的精神作出了极大努力。在编写过程中采取集体讨论，分工负责，共同审定的方式进行，由吴水盛教授任主编并统稿，并得到主编所在单位怀化医学高等专科学校的全力支持，对本书的出版给予了多方面指导，在此一并表示深切感谢。由于时间紧，任务重，经验不足，书中难免存在不足之处。我们编著新世纪教材是一种实事求是的探索与希冀成功的追求，恳切盼望各院校师生和广大读者提出宝贵意见，以便今后进一步修订和提高。

《中医学》教材编写组

2007 年 2 月

目 录

绪 言	(1)
一、编写思想与特色	(1)
二、《中医学》教材内容组织	(1)
第一章 导读	(3)
第一节 中医药学的发展概况	(3)
一、中医药学的起源	(3)
二、中医理论体系的形成	(3)
三、中医理论体系的发展	(4)
四、中医学发展的人文背景	(6)
(一) 阴阳五行对中医的影响	(6)
(二) 元气论对中医的影响	(6)
(三) 天人合一对中医的影响	(7)
第二节 中医学的基本特点	(7)
一、整体观念	(7)
(一) 人是一个有机整体	(7)
(二) 人与外界环境的统一性	(8)
二、辨证论治	(9)
三、恒动观念	(10)
(一) 自然界的恒动观	(10)
(二) 生命活动的恒动观	(10)
第三节 中医学的逻辑思维	(11)
一、比较与分类	(11)
二、归纳与演绎	(12)
三、分析与综合	(13)
第四节 未来中医药事业的发展	(13)
一、重新认识, 调整提高	(13)
二、抓住机遇, 创新发展	(14)
第二章 中医学的哲学基础	(16)
第一节 阴阳学说	(16)
一、阴阳的基本概念	(16)
二、阴阳学说的基本内容	(16)
(一) 事物的阴阳属性	(16)
(二) 阴阳的相互关系	(17)
三、阴阳学说在中医学中的应用	(18)

(一) 说明组织结构·····	(18)
(二) 说明生理功能·····	(18)
(三) 说明病理变化·····	(19)
(四) 指导疾病诊断·····	(19)
(五) 指导疾病治疗·····	(20)
第二节 五行学说 ·····	(20)
一、五行的基本概念 ·····	(20)
二、五行的抽象特性 ·····	(21)
三、五行学说的主要内容 ·····	(21)
(一) 对事物属性的五行归类·····	(21)
(二) 五行的生克乘侮·····	(22)
四、五行学说在中医学中的应用 ·····	(23)
(一) 解释五脏的生理功能与相互关系·····	(23)
(二) 解释五脏病变的相互影响·····	(23)
(三) 指导疾病诊断·····	(23)
(四) 指导临床治疗·····	(24)
第三节 精气学说 ·····	(24)
第四节 阴阳、五行、精气三者的辩证关系 ·····	(25)
第三章 藏象 ·····	(27)
第一节 脏腑 ·····	(27)
一、五脏 ·····	(27)
(一) 心·····	(27)
(二) 肺·····	(29)
(三) 脾·····	(30)
(四) 肝·····	(32)
(五) 肾·····	(34)
二、六腑 ·····	(36)
(一) 胆·····	(36)
(二) 胃·····	(37)
(三) 小肠·····	(37)
(四) 大肠·····	(38)
(五) 膀胱·····	(38)
(六) 三焦·····	(38)
三、奇恒之腑 ·····	(39)
(一) 脑·····	(39)
(二) 女子胞·····	(39)
四、脏腑之间的纵横向联系 ·····	(39)
(一) 脏与脏的关系·····	(40)
(二) 脏与腑的关系·····	(43)
(三) 腑与腑的关系·····	(44)

第二节 气、血、津液	(44)
一、气	(45)
(一) 气的基本概念	(45)
(二) 气的生成	(45)
(三) 气的功能	(45)
(四) 气的运动	(46)
(五) 气的分类	(47)
二、血	(48)
(一) 血的基本概念	(48)
(二) 血的生成	(48)
(三) 血的功能	(49)
(四) 血的运行	(49)
三、津液	(49)
(一) 津液的基本概念	(49)
(二) 津液的生成、输布和排泄	(50)
(三) 津液的功能	(50)
四、气、血、津液之间的关系	(51)
(一) 气与血的关系	(51)
(二) 气与津液的关系	(52)
(三) 血与津液的关系	(52)
第四章 经络	(54)
第一节 经络的概念及组成	(54)
一、经络的概念	(54)
二、经络的组成	(54)
(一) 经脉	(54)
(二) 络脉	(55)
(三) 连属部分	(55)
(四) 络属脏腑	(56)
第二节 十二经脉	(56)
一、十二经脉的名称与分类	(56)
二、十二经脉的走向规律	(56)
三、十二经脉的分布规律	(57)
四、十二经脉的表里关系	(57)
五、十二经脉的流注次序	(58)
第三节 奇经八脉	(58)
一、奇经八脉的特点	(58)
二、奇经八脉的功能	(59)
三、奇经八脉的基本内容	(59)
第四节 经络的生理功能及经络学说的临床运用	(60)
一、经络的生理功能	(60)

二、经络学说的临床应用	(60)
(一) 说明病理变化	(60)
(二) 指导疾病诊断	(61)
(三) 指导临床治疗	(61)
(四) 预防疾病	(62)
第五章 病因病机	(63)
第一节 病因	(63)
一、外感病因	(63)
(一) 六淫	(63)
(二) 疠气	(67)
二、内伤病因	(67)
(一) 内伤七情	(68)
(二) 饮食	(69)
(三) 劳逸	(69)
三、病理产物性病因	(69)
(一) 痰饮	(70)
(二) 瘀血	(70)
(三) 结石	(70)
四、其他病因	(71)
(一) 外伤	(71)
(二) 虫兽伤	(71)
(三) 寄生虫	(71)
(四) 中毒	(71)
(五) 医过及先天因素	(71)
第二节 病机	(71)
一、正邪相争	(72)
(一) 正邪相争与发病	(72)
(二) 正邪盛衰与病邪出入	(72)
(三) 正邪盛衰与虚实变化	(72)
(四) 正邪盛衰与疾病转归	(73)
二、阴阳失调	(73)
(一) 阴阳失调与发病	(73)
(二) 阴阳盛衰与寒热变化	(73)
(三) 阴阳盛衰与疾病转归	(73)
三、气机失常	(74)
(一) 气滞	(74)
(二) 气逆	(74)
(三) 气陷	(74)
(四) 气闭	(74)
(五) 气脱	(75)

第六章 诊法	(76)
第一节 诊法的基本原理与运用原则	(76)
一、诊法的基本原理	(76)
(一) 司外揣内	(76)
(二) 见微知著	(76)
(三) 以常衡变	(76)
二、诊法的运用原则	(77)
(一) 整体审察	(77)
(二) 四诊合参	(77)
(三) 病证结合	(77)
第二节 望诊	(77)
一、全身望诊	(77)
(一) 望神	(78)
(二) 望色	(78)
(三) 望形体	(79)
(四) 望动态	(79)
二、局部望诊	(80)
(一) 望头面	(80)
(二) 望五官	(80)
(三) 望颈项躯体	(81)
(四) 望皮肤	(81)
(五) 望毛发	(81)
三、望排出物	(81)
四、望小儿指纹	(82)
五、望舌	(82)
(一) 望舌质	(83)
(二) 望舌苔	(84)
(三) 望舌的临床意义	(85)
第三节 闻诊	(86)
一、听声音	(86)
二、嗅气味	(87)
第四节 问诊	(87)
一、问寒热	(87)
二、问汗	(88)
三、问疼痛	(88)
四、问饮食口味	(89)
五、问睡眠	(89)
六、问二便	(89)
七、问小儿及妇女	(90)
第五节 切诊	(91)

一、脉诊	(91)
(一) 脉象的形成原理与脉诊的临床意义	(91)
(二) 脉诊的部位和方法	(91)
(三) 正常脉象	(91)
(四) 常见病脉及主病	(92)
(五) 相兼脉及主病	(94)
(六) 脉症的顺逆与从舍	(95)
二、按诊	(95)
第七章 辨证	(96)
第一节 辨证论治概述	(96)
一、辨证论治体系	(96)
二、辨证与辨病的关系	(96)
第二节 八纲辨证	(97)
一、表里辨证	(97)
(一) 表证	(97)
(二) 里证	(97)
(三) 表证与里证的鉴别	(97)
(四) 表证与里证的关系	(97)
二、寒热辨证	(98)
(一) 寒证	(98)
(二) 热证	(98)
(三) 寒证与热证的鉴别	(98)
(四) 寒证与热证的关系	(98)
三、虚实辨证	(99)
(一) 虚证	(99)
(二) 实证	(99)
(三) 虚证与实证的鉴别	(99)
(四) 虚证与实证的关系	(100)
四、阴阳辨证	(100)
(一) 阴证与阳证	(100)
(二) 亡阴证与亡阳证	(100)
五、八纲辨证之间的关系	(101)
六、八纲辨证的意义	(101)
第三节 脏腑辨证	(101)
一、辨心与小肠病证候	(101)
(一) 心气虚与心阳虚	(101)
(二) 心血虚与心阴虚	(102)
(三) 心火亢盛	(102)
(四) 心血瘀阻	(102)
(五) 痰迷心窍	(102)

(六) 痰火扰心	(103)
(七) 小肠实热	(103)
(八) 小肠虚寒	(103)
二、辨肺与大肠病证候	(103)
(一) 肺气虚	(104)
(二) 肺阴虚	(104)
(三) 风寒束肺	(104)
(四) 风热犯肺	(104)
(五) 燥邪犯肺	(104)
(六) 痰热壅肺	(105)
(七) 痰湿阻肺	(105)
(八) 大肠湿热	(105)
(九) 大肠液亏	(105)
三、辨脾与胃病证候	(105)
(一) 脾气虚	(106)
(二) 脾阳虚	(106)
(三) 脾气下陷 (中气下陷)	(106)
(四) 脾不统血	(106)
(五) 寒湿困脾	(107)
(六) 脾胃湿热	(107)
(七) 胃阴虚	(107)
(八) 胃火炽盛	(107)
(九) 食滞胃脘	(107)
(十) 胃阳虚	(108)
四、辨肝与胆病证候	(108)
(一) 肝气郁结	(108)
(二) 肝火上炎	(108)
(三) 肝血虚	(109)
(四) 肝阴虚	(109)
(五) 肝阳上亢	(109)
(六) 肝风内动	(109)
(七) 肝胆湿热	(110)
(八) 寒凝肝脉	(110)
(九) 胆郁痰扰	(110)
五、辨肾与膀胱病证候	(110)
(一) 肾阳虚	(111)
(二) 肾气不固	(111)
(三) 肾虚水泛	(111)
(四) 肾不纳气	(111)
(五) 肾精不足	(111)

(六) 肾阴虚	(112)
(七) 膀胱湿热	(112)
六、辨脏腑兼病证候	(112)
(一) 心肺气虚	(112)
(二) 心脾两虚	(113)
(三) 心肾不交	(113)
(四) 心肾阳虚	(113)
(五) 肝脾不调	(113)
(六) 肝胃不和	(113)
(七) 肝火犯肺	(114)
(八) 肝肾阴虚	(114)
(九) 肺脾气虚	(114)
(十) 肺肾阴虚	(114)
(十一) 脾肾阳虚	(114)
第四节 六经辨证	(115)
一、太阳病证	(115)
(一) 太阳中风	(115)
(二) 太阳伤寒	(116)
二、阳明病证	(116)
(一) 阳明经证	(116)
(二) 阳明腑证	(116)
三、少阳病证	(116)
四、太阴病证	(116)
五、少阴病证	(117)
(一) 少阴寒化证	(117)
(二) 少阴热化证	(117)
六、厥阴病证	(117)
第五节 卫气营血辨证	(118)
一、卫分证	(118)
二、气分证	(118)
(一) 气分热盛	(119)
(二) 热结肠道	(119)
三、营分证	(119)
(一) 热伤营阴	(119)
(二) 热入心包	(119)
四、血分证	(119)
(一) 血热妄行	(120)
(二) 肝热动风	(120)
(三) 血热伤阴	(120)
第六节 三焦辨证	(121)

第八章 防治原则	(122)
第一节 养生	(122)
一、调摄精神形体与适应外界环境.....	(122)
(一) 养生概念	(122)
(二) 养生的基本原则	(122)
二、防微杜渐.....	(123)
(一) 未病先防	(123)
(二) 既病防变	(124)
第二节 治则	(124)
一、治病求本.....	(124)
(一) 治标与治本	(125)
(二) 正治与反治	(125)
二、扶正祛邪.....	(126)
(一) 扶正	(126)
(二) 祛邪	(126)
三、调整阴阳.....	(127)
(一) 损其有余	(127)
(二) 补其不足	(127)
四、三因制宜.....	(127)
(一) 因时制宜	(127)
(二) 因地制宜	(128)
(三) 因人制宜	(128)
第三节 治法	(128)
一、汗法.....	(128)
二、吐法.....	(128)
三、下法.....	(128)
四、和法.....	(129)
五、温法.....	(129)
六、清法.....	(129)
七、消法.....	(129)
八、补法.....	(129)
第九章 中药	(131)
第一节 中药的基本知识	(131)
一、中药的炮制.....	(131)
(一) 炮制的目的	(131)
(二) 炮制的方法	(131)
二、中药的性能.....	(132)
(一) 四气五味	(132)
(二) 归经	(133)
(三) 升降浮沉	(133)

三、中药的用法	(133)
(一) 配伍	(133)
(二) 禁忌	(134)
(三) 剂量	(135)
(四) 煎服法	(135)
第二节 常用中药	(135)
一、解表药	(135)
(一) 辛温解表药	(135)
(二) 辛凉解表药	(138)
二、清热药	(140)
(一) 清热泻火药	(140)
(二) 清热燥湿药	(141)
(三) 清热解毒药	(142)
(四) 清热凉血药	(144)
(五) 清退虚热药	(145)
三、泻下药	(146)
四、祛风湿药	(148)
五、芳香化湿药	(150)
六、利水渗湿药	(152)
七、温里药	(154)
八、理气药	(156)
九、消导药	(158)
十、活血祛瘀药	(160)
十一、止血药	(163)
十二、化痰止咳平喘药	(166)
(一) 化痰药	(167)
(二) 止咳平喘药	(169)
十三、安神药	(171)
十四、平肝息风药	(172)
十五、开窍药	(175)
十六、补益药	(175)
(一) 补气药	(176)
(二) 补血药	(177)
(三) 补阴药	(179)
(四) 补阳药	(181)
十七、收涩药	(183)
十八、驱虫药	(185)
第十章 方剂	(187)
第一节 方剂的基本知识	(187)
一、方剂的组成及其变化	(187)

(一) 方剂组成原则	(187)
(二) 方剂组成变化	(188)
二、方剂的剂型	(188)
(一) 汤剂	(188)
(二) 散剂	(188)
(三) 丸剂	(188)
(四) 膏剂	(188)
(五) 酒剂	(188)
(六) 丹剂	(189)
(七) 冲剂	(189)
(八) 片剂	(189)
(九) 口服液	(189)
(十) 注射液	(189)
第二节 常用方剂	(189)
一、麻黄汤《伤寒论》	(189)
二、桂枝汤《伤寒论》	(190)
三、银翘散《温病条辨》	(190)
四、桑菊饮《温病条辨》	(190)
五、败毒散《太平惠民和剂局方》	(191)
六、白虎汤《伤寒论》	(191)
七、清营汤《温病条辨》	(192)
八、犀角地黄汤《备急千金要方》	(192)
九、五味消毒饮《医宗金鉴》	(192)
十、龙胆泻肝汤《医宗金鉴》	(193)
十一、葛根芩连汤《伤寒论》	(193)
十二、理中丸《伤寒论》	(193)
十三、小建中汤《伤寒论》	(194)
十四、大承气汤《伤寒论》	(194)
十五、小柴胡汤《伤寒论》	(194)
十六、藿香正气散《太平惠民和剂局方》	(195)
十七、茵陈蒿汤《伤寒论》	(195)
十八、独活寄生汤《备急千金要方》	(196)
十九、二陈汤《太平惠民和剂局方》	(196)
二十、止嗽散《医学心悟》	(197)
二十一、半夏白术天麻汤《医学心悟》	(197)
二十二、桑杏汤《温病条辨》	(197)
二十三、血府逐瘀汤《医林改错》	(198)
二十四、瓜蒌薤白半夏汤《金匱要略》	(198)
二十五、补阳还五汤《医林改错》	(199)
二十六、生化汤《傅青主女科》	(199)

二十七、小蓟饮子《丹溪心法》	(199)
二十八、四君子汤《太平惠民和剂局方》	(200)
二十九、补中益气汤《脾胃论》	(200)
三十、四物汤《太平惠民和剂局方》	(201)
三十一、归脾汤《济生方》	(201)
三十二、六味地黄丸《小儿药证直诀》	(201)
三十三、肾气丸《金匱要略》	(202)
三十四、保和丸《丹溪心法》	(202)
三十五、酸枣仁汤《金匱要略》	(203)
三十六、天麻钩藤饮《杂病证治新义》	(203)
三十七、安宫牛黄丸《温病条辨》	(203)
三十八、至宝丹《太平惠民和剂局方》	(204)
三十九、苏合香丸《太平惠民和剂局方》	(204)
四十、金锁固精丸《医方集解》	(204)
四十一、完带汤《傅青主女科》	(205)
四十二、乌梅丸《伤寒论》	(205)
第十一章 常见病证	(212)
一、感冒	(212)
二、咳嗽	(214)
三、喘证	(216)
四、胃痛	(218)
五、泄泻	(220)
六、水肿	(222)
七、淋证	(224)
八、心痛	(226)
九、心悸	(228)
十、眩晕	(230)
十一、头痛	(232)
十二、中风	(234)
十三、郁证	(237)
十四、血证	(239)
十五、汗证	(243)
十六、饮证	(245)
十七、黄疸	(247)
十八、痹证	(248)
十九、消渴	(250)
二十、虚劳	(252)
二十一、月经不调	(255)
月经先期	(255)
月经后期	(256)

月经先后无定期·····	(258)
月经过多·····	(258)
月经过少·····	(259)
二十二、痛经·····	(260)
二十三、崩漏·····	(261)
二十四、带下·····	(263)
二十五、脏躁·····	(265)
二十六、产后缺乳·····	(266)
二十七、疔腮·····	(267)
二十八、麻疹·····	(268)
二十九、疳证·····	(271)
三十、百日咳·····	(272)
三十一、夏季热·····	(274)
三十二、疖·····	(275)
三十三、肠痈·····	(277)
三十四、湿疹·····	(278)
三十五、瘾疹·····	(279)
第十二章 非药物疗法 ·····	(282)
第一节 针灸疗法 ·····	(282)
一、针灸学基础理论·····	(282)
(一) 腧穴分类 ·····	(282)
(二) 腧穴治疗作用 ·····	(283)
(三) 腧穴定位方法 ·····	(283)
二、常用腧穴·····	(285)
(一) 手太阴肺经穴 ·····	(285)
(二) 手阳明大肠经穴 ·····	(286)
(三) 足阳明胃经穴 ·····	(288)
(四) 足太阴脾经穴 ·····	(291)
(五) 手少阴心经穴 ·····	(292)
(六) 手太阳小肠经穴 ·····	(293)
(七) 足太阳膀胱经穴 ·····	(294)
(八) 足少阴肾经穴 ·····	(296)
(九) 手厥阴心包经穴 ·····	(298)
(十) 手少阳三焦经穴 ·····	(299)
(十一) 足少阳胆经穴 ·····	(300)
(十二) 足厥阴肝经穴 ·····	(302)
(十三) 任脉穴 ·····	(303)
(十四) 督脉穴 ·····	(305)
(十五) 常用经外穴 ·····	(307)
三、针刺方法·····	(308)